

令和3年度 第2回熊本市移動等円滑化推進協議会

都市建設局

都市政策課

健康福祉局

健康福祉政策課

(0) はじめに

(0) はじめに

バリアフリーマスタープランは、バリアフリー法やガイドラインに基づき、以下の内容で構成。

バリアフリーマスタープランの主な内容

- マスタープラン策定の背景・目的
- マスタープランの位置づけ・計画期間
- 基本理念・基本方針
- バリアフリーマスタープランの対象範囲や取組方針
- バリアフリーに関するソフト施策
- 届出行為
- マスタープランの推進体制

R3.11.2

第1回協議会

- 全体の概要
- 基本理念等
- 移動等円滑化促進地区選定の手順
- 生活関連施設及び経路設定の考え方

R3.12~R4.1

・アンケート調査

R4.2.18(今回)

第2回協議会

- 意見聴取結果について(アンケート調査)
- バリアフリーマスタープランの対象範囲や取組方針設定の考え方
- 今後の機運醸成等について

R4.3月頃

・まちあるきワークショップ

R4.4~

第3回協議会以降

- 生活関連施設・関連経路の設定
- 取組方針の設定
- 心のバリアフリーについて
- マスタープランのとりまとめ 等

(1) 意見聴取結果について (アンケート調査等)

(1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）

■調査概要

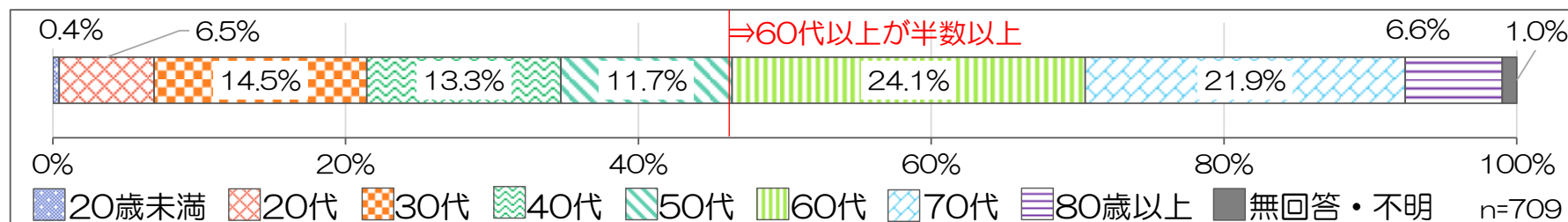
- 目的：バリアフリーに関する意識やご要望、施設の利用状況などの把握
- 対象：熊本市在住の高齢者や障がいのある方、子育て世帯などを中心に 2,000人
- 時期：令和3年12月26日 ～ 令和4年1月17日
- 回収数：709票（うち郵送回答519票、WEB回答190票）

調査項目 ※赤字：次頁以降に結果を記載している項目	
1.ご自身のことについて	性別、 <u>年齢</u> 、お住まい、外出頻度、 <u>障がいの有無・種類</u>
2.バリアフリーに関する 市民意識について	サポートの経験、 <u>心のバリアフリーの認知状況</u> 、心のバリアフリーを広めるために重要な取組、マタニティマークの認知状況、障がい者サポーターシンボルマークの認知状況、障がい者サポーター制度の認知状況、ヘルプカードの認知状況、認知症サポーター制度の認知状況、 <u>共生社会の実現に向けた市の啓発活動への所感</u> 、偏見等についての所感
3.市内での移動手段や 利用する施設について	よく利用する交通手段、 <u>地域拠点のうちよく利用する地区、よく利用する施設</u>
4.市内のバリアフリーに 関する課題について	<u>施設種類別のバリアフリーに関する満足度</u> 、施設種類別のバリアフリーに関するお困りごと
5.災害時のバリアフリー の課題について	避難時に手助けが必要な方の有無、 <u>災害時の避難場所の認知状況</u> 、 <u>避難時のバリアフリー上の不安</u> 、熊本市災害時要援護者避難制度の認知状況
自由意見	その他バリアフリーについて感じていること

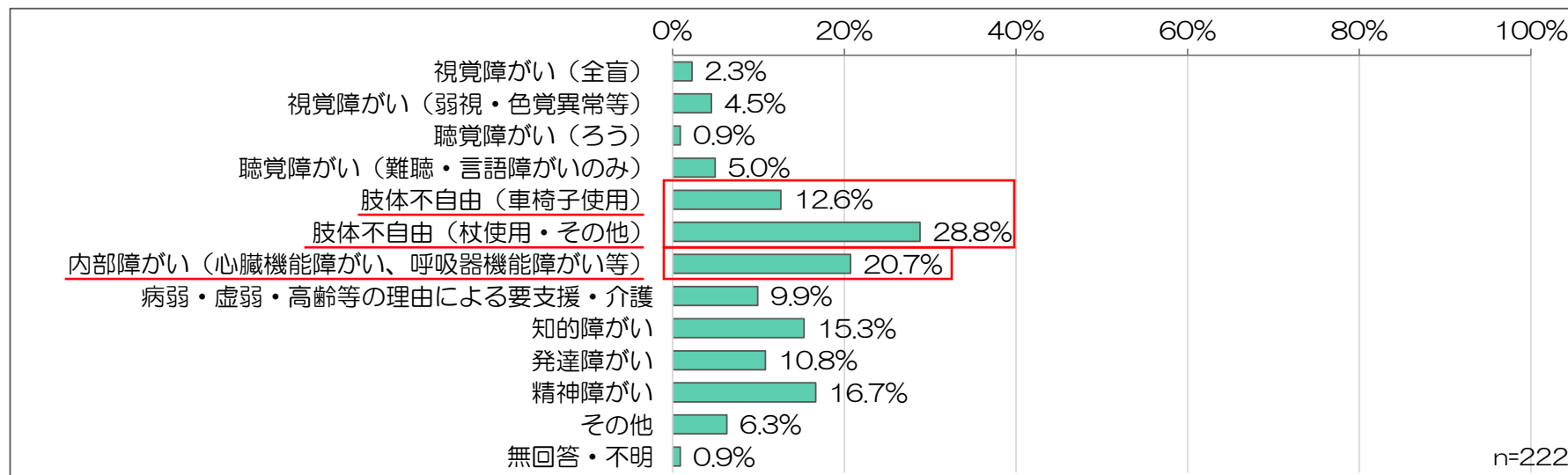
(1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）

■回答者属性

- 回答者は60代（24%）が最も多く、次いで70代（22%）、30代（15%）となっている。
- 回答者のうち、回答者もしくは同居者が要介護者又は障がい者であると回答した方は31.3%であり、そのうち、障がいの種類は、肢体不自由（車椅子使用 13%）（杖使用・その他 29%）が最も多く、次いで内部障がい（21%）となっている。



回答者の年齢

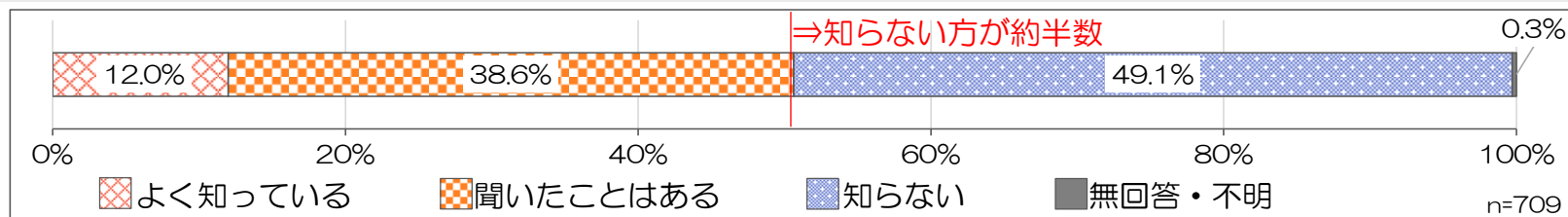


回答者/同居者の障がいの種類（複数回答あり）

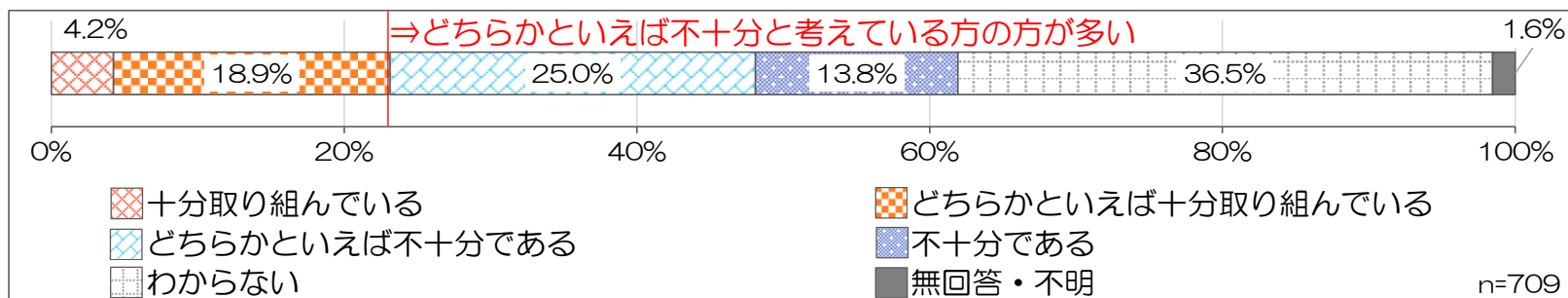
(1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）

■ バリアフリーに関する市民意識について

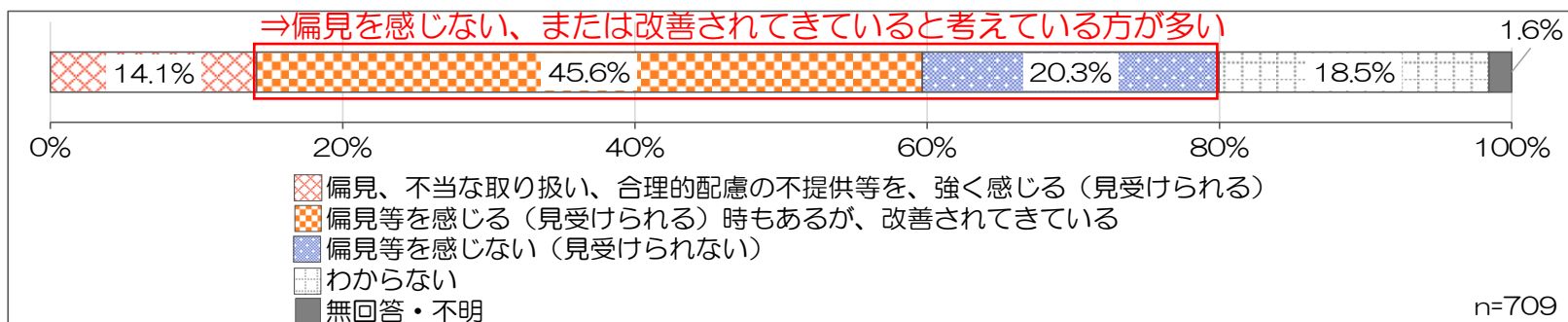
- 心のバリアフリーについては、「よく知っている」が12%、「知らない」が49%と、認知度が非常に低い。
- 共生社会の実現に向けた市の啓発活動に関する所感は、「十分取り組んでいる」、「どちらかといえば十分取り組んでいる」で計23%、「どちらかといえば不十分である」、「不十分である」で計39%となっている。
- 偏見等への所感は、「偏見を感じない」、「感じる時もあるが、改善されてきている」が計65.9%と多くなっている。。



心のバリアフリーの認知状況



本市の共生社会の実現に向けた啓発活動についての所感

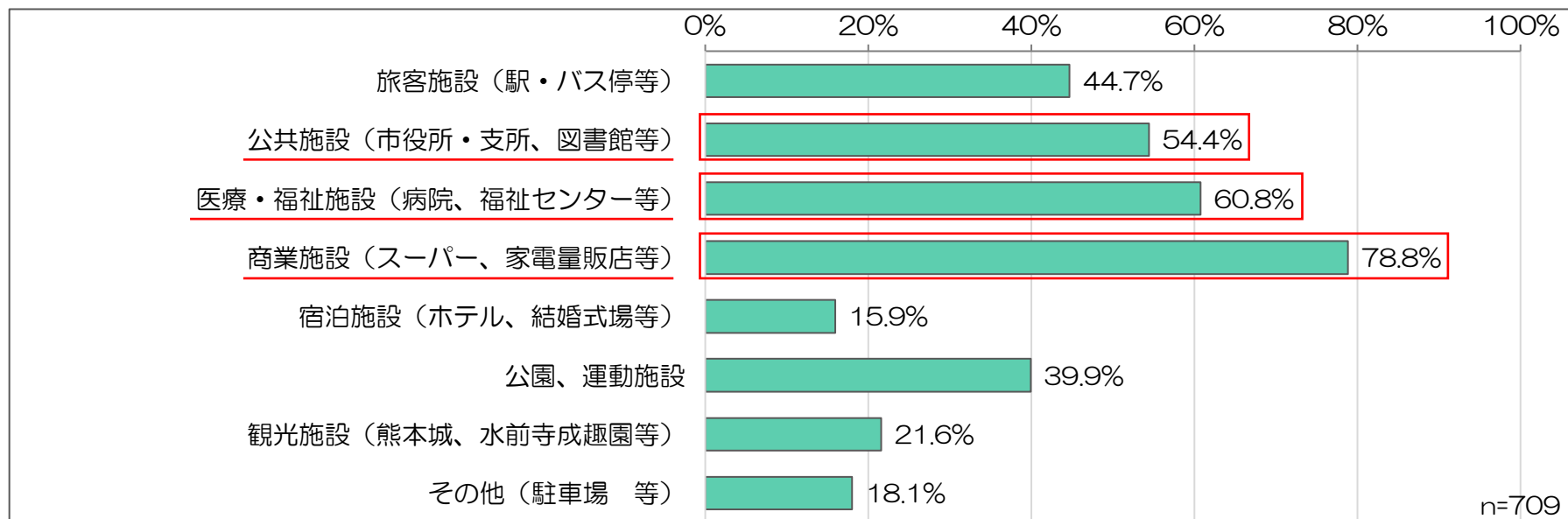


偏見、不当な取り扱い、合理的配慮の不提供等についての所感

(1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）

■市内でよく利用する施設について（施設別に集計）

- よく利用する施設は、商業施設（スーパー等）が78.8%と特に多く、次いで医療・福祉施設（病院等）（60.8%）、公共施設（54.4%）となっている。

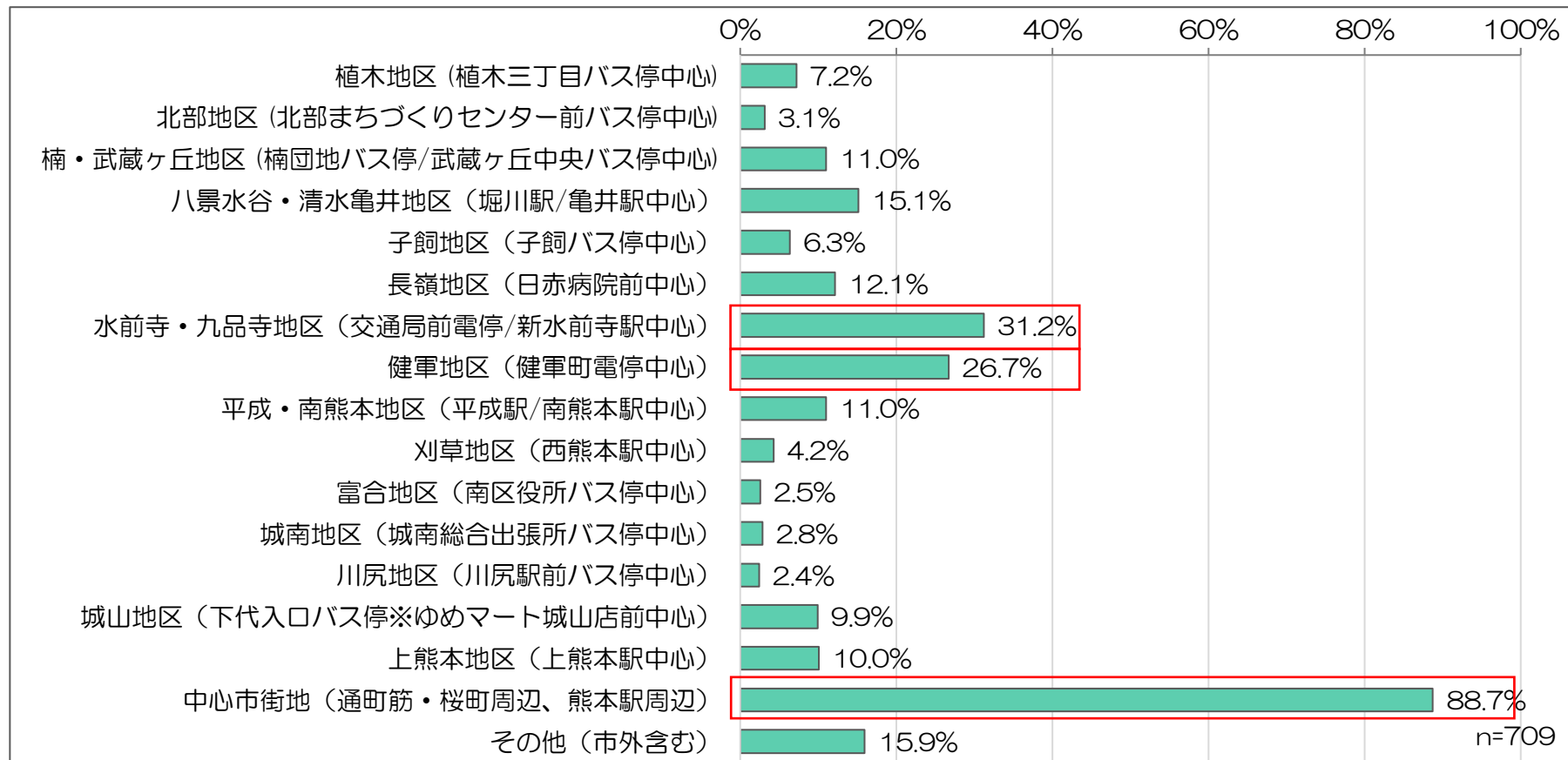


地域拠点（都市機能誘導区域）のうちよく利用する施設（複数回答あり）

(1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）

■市内でよく利用する施設について（地区別に集計）

- よく利用する施設（地区別）は、中心市街地（通町電停周辺）が88.7%と特に多く、次いで水前寺・九品寺地区（31.2%）、健軍地区（26.7%）となっており、施設等が集積している地区を中心に多くなっている。

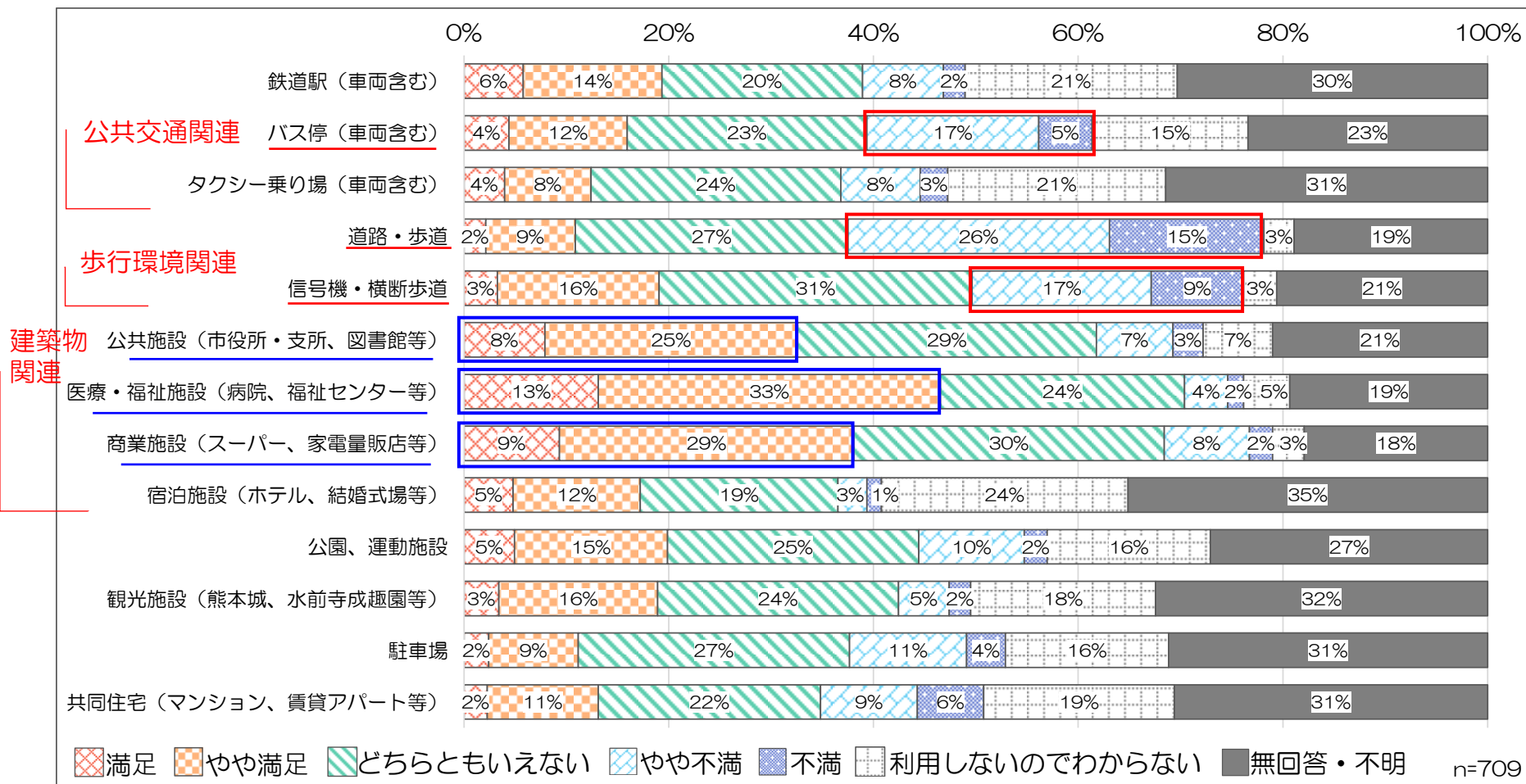


地域拠点（都市機能誘導区域）のうちよく利用する地区（複数回答あり）

(1) 意見聴取結果について（アンケート調査）

■市内のバリアフリーに関する満足度について

- 施設種類別のバリアフリーに関する満足度について、医療・福祉施設や商業施設、公共施設などの建築物については「満足」、「やや満足」の割合が多くなっている。一方、公共交通機関（バス停）、道路・歩道、信号機・横断歩道などの歩行環境については「やや不満」、「不満」の割合が「満足」、「やや満足」の割合を上回っている。



施設種類別のBFに関する満足度

(1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）

■市内のバリアフリーに関する課題について

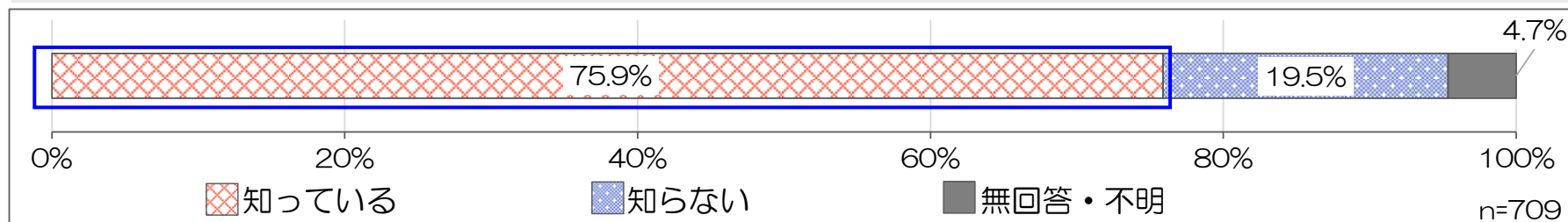
- 施設種類別にバリアフリーに関するお困りごとを伺ったところ、鉄道駅、バス停、道路・歩道、信号機・横断歩道について特に多くの回答が得られた。主なご意見は以下のとおりである。

バリアフリーに関するお困りごと		※（ ）内は意見数
鉄軌道駅	・ 駅に階段が多く移動が困難（14件） ・ 乗降時の段差が高い、低床車両の運行を増やしてほしい（12件） ・ 電停ホームの幅が狭い（8件）	
バス停	・ ベンチや屋根などの待合環境の整備が不十分（36件） ・ 歩道とバス車両に段差があり乗降しにくい（27件） ・ 案内表示や時刻表がわかりにくい（13件）	
道路・歩道	・ 道路、歩道の幅が狭い（72件） ・ 段差や凹凸が多く歩きにくい（57件） ・ 自転車歩道を通行するため危険（19件） ・ 歩道がない箇所がある（16件）	
信号機・横断歩道	・ 青信号（歩行者）の時間が短く、渡り切れない（18件） ・ 横断歩道の白線が消えかかっている（17件） ・ 横断歩道や信号がなく、危険な箇所がある 等（7件）	
その他施設 （公共・医療・商業施設 等）	・ バリアフリーに対応したトイレが少ない（42件） ・ 駐車場が使いづらい。障害者用駐車場が少ない。（41件） ・ 障害者用駐車場に、健常者が駐車し利用できないことがある（11件）	

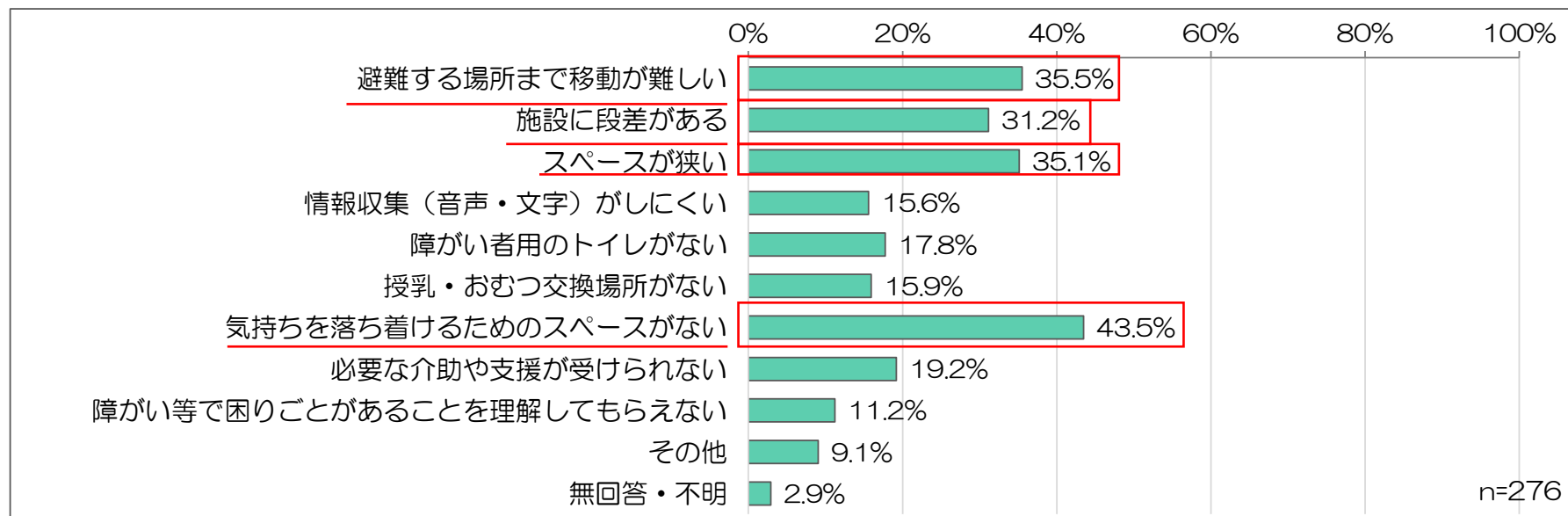
(1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）

■災害時のバリアフリーの課題について

- 災害時の避難場所の認知状況は、「知っている」が76%と高くなっており、市民意識の高さがうかがえる。
- 避難時のバリアフリー上の不安があると回答した方の不安の内容は、「気持ちを落ち着けるためのスペースがない」が44%と最も多くなっており、次いで「避難する場所まで移動が難しい」（35.5%）、「スペースが狭い」（35.1%）、「施設に段差がある」（31.2%）となっている。



災害時の避難場所の認知状況



避難時のバリアフリー上の課題

(1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）

■その他の主な意見（自由記載）



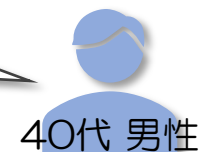
見た目では障がいの有無が判断できない場合もあるので、バス等では着席してから発車を徹底してほしい。また、TELでの問合せ窓口があるが、電話ができないので、WEBやメールでの問合せ窓口を作してほしい。

避難先になっている小学校の施設が全体的に古いのが気になる。トイレは小学生用サイズで小さく和式トイレで年配の方は大変そう。



建物と歩道、車道と歩道に段差と勾配がありすぎる。もう少し、歩行者にやさしい維持管理が必要。

ハードで全てはカバーできないので市民の意識啓発がもっとも重要。



支払いなど機械化が進み迷うことが多い。アナログも最小限は必要かも！

バリアフリーが充実した環境は、全ての方にとっても住みやすい社会である。自分にとって必要性が低いことにはなかなか気づかない事が多い。バリアフリーを必要としている方々にたくさん意見を聞きまちづくりに活かしてほしい。



(1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）

■ アンケート調査のまとめ

- 心のバリアフリーや、バリアフリーに関する各種取組（マーク等）については、非常に低い認知度となっていることから、ソフト分野での啓発活動が重要。
- 避難時の不安として、「落ちつけるスペースがない」や「移動が難しい」などが多く、避難所の利用環境やサポートの充実を図ることが重要。
- 青時間が短く渡り切れない信号機や、横断歩道標示の劣化など、交通安全上の指摘が多くあり、交通管理者と道路管理者が連携した交通安全対策が重要。
- 障がいのある方は自動車での移動も多いものの、中心市街地や地域拠点への貴重な移動手段である公共交通面でのバリアフリー化も重要。
- 医療・福祉施設や商業施設、公共施設などの建築物については、その他の施設と比較し、満足度は高い傾向にあるが、課題であるバリアフリースイッチや障がい者用駐車場の整備等を推進していくことが重要。

(1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）

■今後実施予定のまちあるきワークショップの概要

- 目 的：様々な立場の人の視点で、実際にまちあるきを実施することで、**機運醸成や課題の共有を図るとともに、施設ごとのバリアやそれぞれの視点での感じ方について確認する**もの。
- 日 時：令和4年3月上旬頃
- 参加者：障がい者団体に所属する方、協議会関係者、公募市民等
- 概 要：
 - ・事務局にて、事前に経路上のバリアの体験ポイントを設定。
 - ・障がいの種類毎に少人数の班（3名程度×3～5班）を編成し、まちあるきを実施。
 - ・まちあるき参加者及び協議会関係者にて、ワークショップ（オンラインでの意見交換）を行い、「立場×施設」ごとに課題や解決策等について整理する。

経路【テーマ】	主な検証箇所
①桜町～新市街 【ターミナル・イベント】	・商業施設、広場・公園、周辺市道、県道 ・桜町BT、辛島町電停 ・駐車場（パースト） 等
②熊本城～市役所周辺 【観光】	・市役所、城彩苑、周辺市道、県道 ・市役所前電停、市役所前バス停 ・駐車場（市役所前） 等
③通町～下通・上通 【まちなか回遊】	・現代美術館、下通、上通、ツタヤ ・通町電停、バス停 ・ホテル日航 等

(1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）

■意見聴取結果のマスタープランへの反映（イメージ）

- 意見聴取の結果については、促進地区の選定や、取組方針、ソフト施策（心のバリアフリー）に反映させる。
- 「心のバリアフリー」の取組については、協議会及び庁内関係部署からなる部会等において検討。

《アンケート調査》

- 促進地区の選定やバリアフリーに関する課題の抽出に活用

バリアフリーマスタープランの主な内容

○マスタープラン策定の背景・目的

○マスタープランの位置づけ・計画期間

○基本理念・基本方針

○バリアフリーマスタープランの対象範囲や取組方針

○バリアフリーに関するソフト施策

○届出行為

○マスタープランの推進体制

《まちあるきワークショップ》

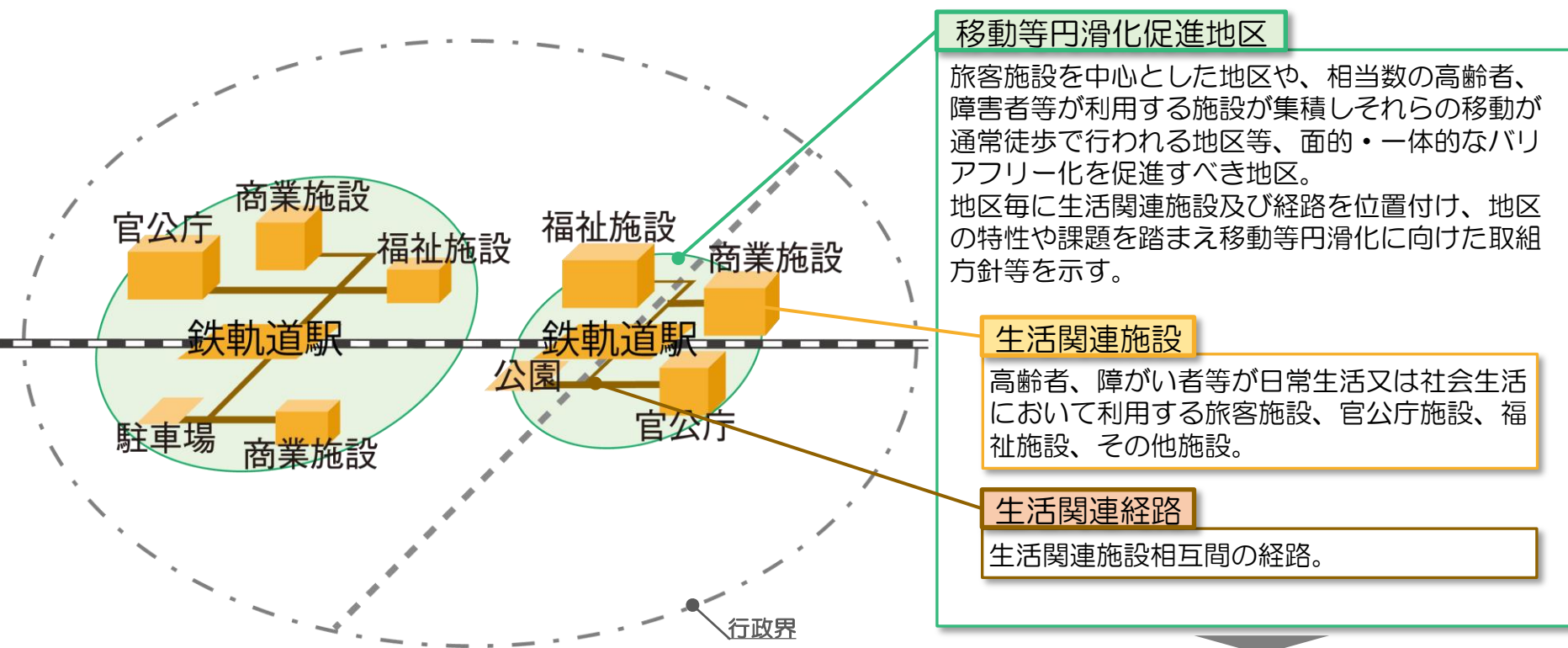


- 機運醸成や課題の共有、取組方針の設定に活用

(2) バリアフリーマスタートプランの 対象範囲や取組方針設定の考え方

(2) バリアフリーマスタープランの対象範囲や取組方針設定の考え方

■一般的なマスタープランのイメージ（国交省ガイドライン等）



【バリアフリーマスタープラン】

⇒生活関連施設、経路等のバリアフリー化を促進

(2) バリアフリーマスタープランの対象範囲や取組方針設定の考え方

■第1回移動等円滑化推進協議会でのご意見

促進地区選定に関するご意見

令和3年(2021年)11月2日 駐輪場8階会議室

- 中心市街地については、ウォークブルの取組と整合を図ることで相乗的な効果を生むことにつながる。
- 県外からも含め来訪者の多い中心市街地はもちろん、高齢者や障がい者が多く、旅客施設の利用者も多い水前寺地区や健軍地区を促進地区とすべきではないか。その他、障がい者の方が多くいらっしゃる長嶺地区についても、その他の地区として考えてみてはどうか。
- 旅客施設の利用者が多く、障がいのある方も含め多くの方が利用する中心市街地でのバリアフリー化が重要であるとともに、多核連携都市の実現に向けては、その他の地区においてもなにかしら考えていかなければならない。
- 障がいがある方等にとっても大きな役割を果たしている公共交通については、タクシーも含め、引き続き利用環境の向上に努めることが重要である。
- 地域によっては、地域住民の通行が多い通学路でも、幅員が狭く交通量も多い道路がある。色分けしている歩道も小学校の前だけという地域もあり、まだまだ見ていて怖いと感じる通学路は多く存在している。
- 市民がお互いに理解し支えあうことによってバリアフリー化を進めていくということは、都市の魅力向上につながる。

(2) バリアフリーマスタープランの対象範囲や取組方針設定の考え方

■マスタープランの対象範囲と取組方針設定の考え方

市 全 域＝マスタープラン対象範囲

市民やあらゆる関係者が、理念や基本方針のもと、考え方を共有し、自立と共生のまちづくりに向けバリアフリー化を促進。

理念
基本方針



市域共通の取組方針

- ・心のバリアフリー：理解を深めるための啓発・教育活動の推進等
- ・防災面：避難所の利用環境の向上やサポート体制の強化
- ・交通安全面：道路管理者と交通管理者が連携した通学路・生活道路等の安全対策、移動等円滑化に配慮した信号機等の導入等

居住誘導区域（中心市街地+15の地域拠点+利便性の高い公共交通沿線）

多くの方が日常的に訪れる地域拠点や、それらを結ぶ利便性の高い公共交通沿線においては、多核連携都市づくりの基幹である公共交通面でのバリアフリー化が重要。

居住誘導区域共通の取組方針

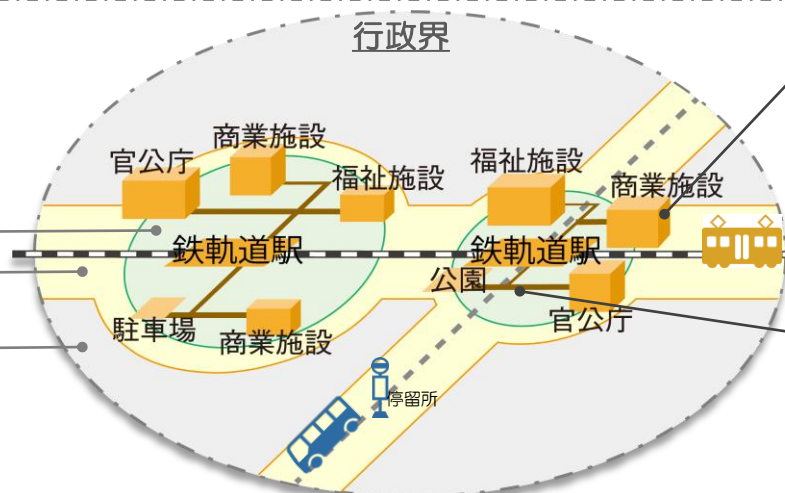
- ・公共交通面：各施設管理者と事業者が連携した乗場環境の改善、移動等円滑化に配慮した車両の導入や運行管理（低床車両の夜間運行や定時化等）

移動等円滑化促進地区

地区特性やアンケート結果等から、多くの方が利用する施設が集積し市民ニーズも高く、取組による効果が特に高い。

地区特性を踏まえた取組方針等

地域特性、生活関連施設・経路、取組方針、法定の届出に関する事項



《生活関連施設》

高齢者、障がい者等が日常生活又は社会生活において利用する旅客施設、官公庁施設、福祉施設、その他施設。

《生活関連経路》

生活関連施設相互間の経路。

(2) バリアフリーマスタープランの対象範囲や取組方針設定の考え方

■各地区の特性やアンケート結果等

- アンケート結果より、よく利用される施設が集積し、市民ニーズが高いことが伺える
中心市街地、水前寺・九品寺地区、健軍地区については、高齢者・障がい者の人口や
旅客施設の利用者数等が多く、取組による効果も特に高い。

	市民アンケート結果		地域特性						特定道路 の有無	来訪者数と 宿泊施設数 (人)
	よく利用される地区 (施設の立地状況を地区別に集計)		高齢者・障がい者等の人口 (人)		主要な旅客施設の平均乗降客数 (人/日)		生活関連候補施設数 (箇所)			
①植木地区		51		1,259		698		20		0
②北部地区		22		716		205		9		0
③楠・武蔵ヶ丘地区		78		6,187		2,254		39		0
④八景水谷・清水亀井地区		107		5,231		771		29		1
⑤子飼地区		45		5,841		1,716		39		0
⑥長嶺地区		86		5,245		283		32		3
⑦水前寺・九品寺地区		221		8,434		4,702		66	有	23
⑧健軍地区		189		6,519		4,906		30	有	1
⑨平成・南熊本地区		78		6,267		2,273		57		2
⑩刈草地区		30		2,451		1,251		9		1
⑪富合地区		18		124		651		4		0
⑫城南地区		20		965		110		9		1
⑬川尻地区		17		1,946		951		18		0
⑭城山地区		70		659		73		8		0
⑮上熊本地区		71		3,312		2,830		32		2
⑯中心市街地 (通町筋・桜町周辺地区、 熊本駅周辺地区)		629		7,907		15,441		143	有	48

(2) バリアフリーマスタープランの対象範囲や取組方針設定の考え方

■移動等円滑化促進地区について

移動等円滑化促進地区の選定について

➤ 地区の特性

- 障がい者・高齢者等の人口
- 生活関連施設数
- 旅客施設の利用者数
- 特定道路の有無
- 来訪者数 等

➤ 協議会等でのご意見

- 県外からも含め来訪者の多い地区はもちろん、高齢者や障がい者が多く、旅客施設の利用者も多い地区を選定するべきではないか。
- 中心市街地については、ウォークブルの取組と整合を図ることで相乗的な効果を生むことにつながる。

➤ 市民アンケート調査

- よく利用される地区
- よく利用される施設数

中心市街地 (熊本駅周辺地区) (通町筋・桜町周辺地区)

商業施設や医療機関、教育機関が高度に集積するなど都市機能が充実している地区。近年、桜町地区再開発施設の開業をはじめ、花畑広場や熊本駅白川口駅前広場の整備も完了するなど、新たな賑わいと回遊の拠点が誕生しました。今後は、誰もが安心して訪れ、回遊することができる居心地の良い人中心の公共空間整備を進め、更なる賑わいや回遊性を高めることで「**昼も夜も誰もが歩いて楽しめる魅力的な都市空間**」の形成を目指している。

サクラマチクマモト



水前寺・九品寺地区

観光・業務機能のほか、教育、学術研究施設も多く立地し、人口密度が高い（高齢者人口も多い）地区。本市のシンボルのひとつでもある水前寺成趣園をはじめとした熊本らしさを感じることでできる風格ある都市空間づくりや、水と緑・歴史・文化と触れ合える公共交通等による回遊ネットワークの形成、**観光・レクリエーションの拠点としての整備**や環境保全など、更なる賑わいの創出を図っていく。

水前寺成趣園



健軍地区

健軍商店街をはじめとする商業施設や医療機関（市民病院等）、公的機関（区役所等）が立地し、多様な生物や自然環境を有する江津湖や動植物園などが隣接する、都市の利便性と自然が調和した地区。**広域交通や公共交通の交通結節点**となっており、機能強化を図るとともに、利用促進や新たな路線展開等にも取り組んでいく。

健軍町電停



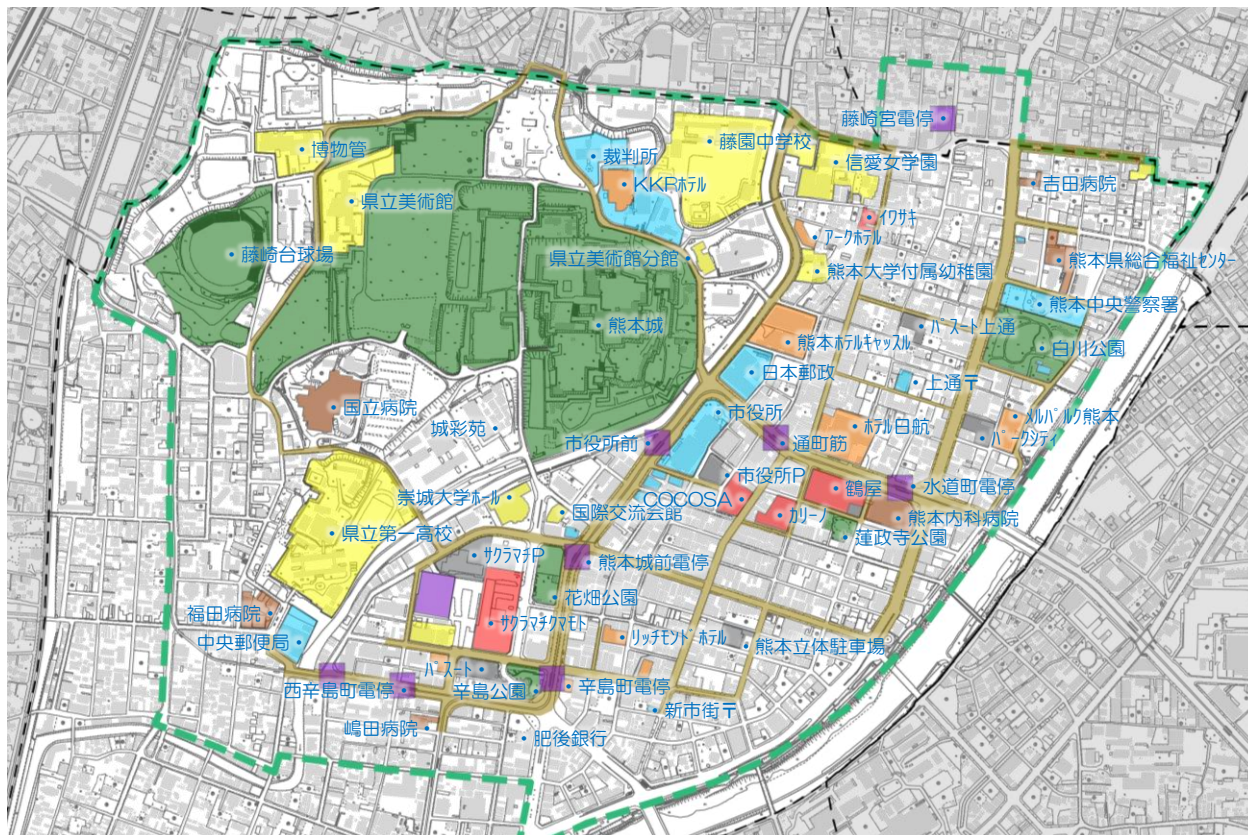
(2) バリアフリーマスタープランの対象範囲や取組方針設定の考え方

■移動等円滑化促進地区における今後の進め方

- 不特定多数の方が利用する施設については、関係者間での協議・調整を図った上で**生活関連施設**として位置づけ、施設相互間の経路を**生活関連経路**として設定。
- 地区の特性を踏まえ、施設毎の課題を整理し、**取組方針**についても検討。
- 旅客施設（生活関連施設）や道路（生活関連経路）などの新設・改築時における法に基づく届出の対象範囲等について、関係者と協議・調整を図り設定。

■移動等円滑化促進地区、生活関連施設及び経路（イメージ）

【中心市街地】



※詳細な区域・施設・経路等については、今後、関係者と協議・調整し、設定予定

(3) その他（今後の機運醸成等について）

WeDOくまもについて

1. きっかけ・目的

2019.11 熊本シティエフエムの番組『ラジオリンカーン』における「車イス等にやさしい街づくり」と市若手職員が繋がり、「WeDOくまもと」が発足。



- 熊本市第7次総合計画の各種施策を、公民連携の視点で推進
- 行政と市民の橋渡し、事業展開により、「移動しやすく歩いて楽しめるまち」を推進

2. 体系

WeDOくまもと

Civic Gear Works 運営委員会

- ・長江 浩史(代表):長江メガネ代表
- ・浅川 浩二:デルタワークスCEO
- ・森永 健太郎:Shirakawa BANKS副代
- ・古賀 元也:古賀都市計画研究室
- ・土黒 功二:よかたいネット熊本理事長
- ・増山 晃太:風景工房代表
- ・桑野 恭輔:熊本シティエフエム

協力
意見交換

行政

- ・末松主査(道路計画課)
- ・山内主査(西区道路課)
- ・木下主査(都市デザイン課)
- ・山下参事(市街地整備課)
- ・石川主技(都市デザイン課)
- ・谷崎主技(建築審査室)
- ・穴見主技(動植物園)
- ・喜佐田主査(森づくり推進課)

3. これまでの活動

- 2019.11 「WeDOくまもと会議」開始
- 2020.12 「市長ランチミーティング」
- 2021.3.27 「【ワークショップ】まちなかあるきSA・RA・KU」
- 2021.4 「ラジオリンカーンに市職員出演」
- 2021.10.18 「市長とWeDOくまもとの対談」
- 2021.10.23 「WeDOくまもと×白川夜市コラボ」
- 2021.11.28 「【ワークショップ】Mobile LEGO lamp project」

- 「WeDOくまもと」と、取組みについて了承
- 「WeDOくまもと」への認知及び賛同が必要
- WeDOくまもとは、各種媒体を活用した市民に対する行政の通訳を期待する
- 市長や職員がラジオ参加もOK

- とても良い取組み。自身のTwitter等でも呼びかけたい。
- 良いまちづくりのためには、行政と市民を区別するのではなく、WeDOくまもとのように、行政と市民が歩み寄るグラデーションのような構図が必要。
- ハイデルベルク市と友好都市40年を迎えることも踏まえ、ハーナウ市長との交流などもあるとよい。

市民とともに“段差の無い移動経路”を作り上げるため、 桜咲くこの季節、車イス・ベビーカーとLINEを活用した“まちなかあるき”を行う。

内容：車イスやベビーカーを使用した状態で街中を移動し、道路や公園の
悪いところ、良いところを発見し、LINEアプリで投稿する実証実験

会場：蓮政寺公園集合 ※実証実験エリアは下記参照

日時：3/27(土) 午前の部ー11:00~/午後の部ー14:00~

【狙い】

- ① 道路利用者のニーズ調査とグリーンベルト普及の必要性を認識してもらう
- ② LINEアプリのPR、健康アプリとの連携等、今後のシステム構築に向けたニーズを聴取
- ③ 段差箇所データベースの構築
- ④ WeDOくまもとの周知



実施エリア



〈主催〉 WeDOくまもと(代表：長江)

〈共催〉 下通繁栄会2番街、(株)えがお、パスト、機能病院、
あいばーと、ワイヤーママ

〈後援〉 熊本市

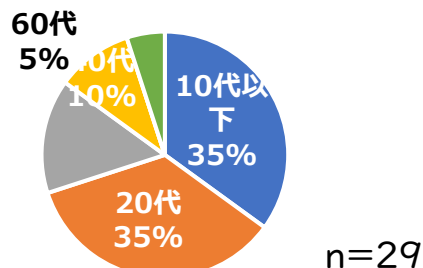
〈参加人数〉 参加者30人程度/ボランティア10人程度

〈実施概要〉

- ・ 車いす・ベビーカーを利用し、与えられたミッションをクリアしつつ、道路や公園の悪い点や良い点をピックアップ
- ・ 箇所の写真をLINEアプリで投稿
※KUMAMOTOPICSとの連動
- ・ 道路に関するアンケート実施
- ・ ガチャガチャでの景品大会

〈広報〉 市LINE、FMK、子ども新聞、市政クラブ投げ込み

参加者の年齢(計29名)



参加者の主な声(抜粋)

参加者全員が参加して良かったと回答

- ❑ 車椅子を押すと、思った以上に、凸凹や段差があることに気付いた。
- ❑ お店に行きたくても、ベビーカーでは行けないところが多々あった。
- ❑ スロープの傾斜がきつくて1人では難しい。
- ❑ ベンチ等、ちょっと休憩できる場所が少なかった。

報道

TV:RKK

ネットニュース:熊日、Yahooニュース

まちあるき実施状況の写真



ベビーカーを押して建物入口の段差を上る状況



車いすに乗って自動販売機で飲み物を買う状況



車いすで市役所のスロープを上る状況



歩道上の障害物により、やむなく車道に下りる状況

ラジオリンカーンでの広報

- ・放送開始:2019年6月スタート
- ・放送日時:毎週火曜日20:00~21:00
- ・放送形態:生放送
- ・出演者:長江浩史、浅川浩二、高智穂さくら

- ❑ 「市民の市民による市民のためのラジオ」を目指す
- ❑ まちなかに「グリーンベルト」と呼ぶ通行に優しいエリアを作る
- ❑ やさしい熊本を実現するため何が出来るか市民目線で情報を発信

- ・第1回目: 2021.4. 6(火)
- ・第2回目: 2021.4.13(火)
- ・第3回目: 2021.4.20(火)

都市デザイン課:木下、石川
市街地整備課:山下、動植物園:穴見
道路整備課:末松、西区土木センター:山内

2022年度の活動

普及啓発活動

ハート

「WeDOくまもと×白川夜市コラボ」

“夜市来場者”に対し、

WeDOくまもとの取組を広報・宣伝する

目的

- 【認知度の向上】 WeDOくまもとの取組への興味・理解・協力
- 【主体性の醸成】 まちなかにあるバリアや危険箇所に“気づいて”いただく

実施概要

- 《主催》 WeDOくまもと
- 《共催》 Shirakawa Banks
- 《実施場所》 白川緑の区間（右図参照）
- 《実施時期》 2021.10.23（SAT）
- 《内容》
 - ・ 入場時、HEART+ONEのロゴ入りのリストバンドを配布
 - ・ ブース・看板を設置し、WeDO活動のチラシを配布
 - ・ プロモーション動画上映
 - ・ LEGOブロックの寄付状況を紹介



社会実験第2弾

ハート+ハード

「MOBILE **LEGO** RAMP PROJECT」

LEGOブロックを活用した段差解消のための
スロープ制作体験会を実施する

目的

- 【認知度の向上】 同左
- 【主体性の醸成】 サポートユーザーへのサポートの必要性を体験
- 【利便性の向上】 まちなか等の段差解消

実施概要

- 《主催》 WeDOくまもと
- 《共催》 熊本市現代美術館、Civic Gear Works、熊本シティFM
- 《実施場所》 熊本市現代美術館アートロフト
- 《実施時期》 2021.11.28（SUN）13:00～
- 《参加対象》 親子10組
- 《内容》
 - ・ HEART+ONEの趣旨説明
 - ・ MOBILE LEGO RAMP PROJECTの趣旨説明
 - ・ LEGO RAMP制作、検証
 - ・ HEART+ONEバッジと景品を進呈
- 《備考》 10月5日から、LEGOブロックの募集開始



「WeDOくまもと×白川夜市コラボ」



「MOBILE **LEGO** RAMP PROJECT」

